

令和 2 年度  
第 3 回 北杜市社会教育委員会議・公民館運営審議会 会議録

日 時 令和 3 年 3 月 8 日（月） 午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 4 5 分

場 所 北杜市役所北館 3 階大会議室

出席者 清水 豊、内藤雅人、赤岡けさみ、内藤久敬、清水もとみ、板山國夫、植松利恵子、藤森富士夫、進藤美紀、進藤正秀、今井三津子、小林秀彦、古家吉寿、功刀美津子

欠席者 宮川文江、原まゆみ

事務局 生涯学習課長 渡辺美津穂  
社会教育担当リーダー 高柳博基  
社会教育担当 小林静香

議 事 (1) 令和 3 年度北杜市生涯学習計画（案）について  
(2) 北杜ふれあい塾について  
(3) その他

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：なし

開会

1. 開会あいさつ（藤森社会教育委員会議副議長）
2. 議長あいさつ（板山社会教育委員会議議長）
3. 教育長あいさつ（教育長 堀内正基） 公務のため欠席
4. 協議事項
  - (1) 令和 3 年度北杜市生涯学習計画（案）について
  - (2) 北杜ふれあい塾について
  - (3) その他
    - ・令和 3 年度における調査研究に向けて
    - ・令和 3 年北杜市成人式について

（事務局） 傍聴人のないことを確認し議事に入る。

【北杜市社会教育委員会議事運営規則第 3 条第 3 項の規定により、内藤会長が議長となる】

（議 長） 協議事項（1）令和 3 年度北杜市生涯学習計画（案）について事務局から説明をお願いします。

（事務局） （1）令和 3 年度北杜市生涯学習計画（案）について説明する。

（議 長） 質問・意見がありましたら、お願いします。

（委 員） P10 の 2 番の（1）の①、「文化協会について、会員の確保や円滑な運営に向けた検討について促す」というのは具体的には。運営に向けた検討について促すとい

うのは、新たに検討をし直してくださいという意味ですか。

(事務局) 文教に補助金を出すと同時に、市の囲碁美術館にいる職員が一部文化協会の事務を兼任しています。それは市の負担、当然市の職員ですので、職員経費として市の方で予算を出していますが、ずっと前からアクションプランで自立化と言われているところではあります。体協のように母体大きい訳ではなく、年齢層も比較的高いということなので、体協は今、指定管理を受け、委託料である程度自主財源を確保していますが、なかなか文教がどこか指定管理で受けてというところが、現実的に難しい。会員も減りつつある状況ですので、会員の確保や会費の増額を検討していただく中で、例えば職員の経費は自分達で持ってもらうということを検討していただくということを意図しています。

(委員) 運営に向けた検討を促すということですか。

(事務局) そうです。簡単に言えば、会費を上げるような議論をしてくださいとか、そういうことを始めましょうと。

(議長) 今、説明がありましたが、私が思うに「運営に向けた検討事項」ですよ。リーダーが検討事項について説明してくれました。従って、運営に向けた検討事項について促したり、支援を行っていくという解釈ではないでしょうか。その辺を部分修正をお願いします。

(委員) 説明や資料がとても良かったです。特に、後任の育成をするというのがとても画期的なことだと思います。意見で、P7の基本方針のところですが、とても良く書かれているし、社会風潮を把握しているのも言葉で上手く表されていて完璧だなと思っていたのですが、個人で気になったのは基本方針の第二段落のところの、閉塞感という言葉。第一段落の「そして」というところを受けて、「こうして」と包括的にまとめる文章が続いているので、自分は「こうした閉塞感」のところを、「変革期」と。例えば、自粛で家から出ないということをコロナ感染の方の立場の人はそういつているけれども、社会教育に携わる人間はその中でも新しいコロナ時代のネットワークの組み方をどうしたらよいか。お年寄りが行くところもない、何もなし。東京や大都会から終の棲家に北杜市を選んでくれたお年寄りが、コロナだから外に出ちゃだめなんていう形で、その人達にとって落語を聞いてもらったり、音楽を聴いてもらったりして、しばしの癒しに。よく笑い話で、教育がある、教養がある、今日行くところがある、今日用事がある、生きていて良かったと。新しいコロナ時代の社会教育の在り方を考えないとならないのもそうだが、実際の問題で老若男女の老後の人達に行くところを提供する。感染症で倒れないための企画・プログラムをどうしたらいいか真剣に考えるのも大事。だけど、音楽や落語を聴いてもらったりしてお年寄りに笑ってもらおうという場の提供をしてもらう。こここのところの「閉塞感」という言葉を、社会の「変革期に」という言葉を使うか、あるいは「転換期」という言葉を使うか。転換期を辞書で引くと、人生の転換期というような形。社会という大きな目で見ると、変革期。一つの意見ですので、資料等見直してもらって全体のバランスがいいようであれば「閉塞感」で通していただいて。

(議長) ご意見ありがとうございます。参考にさせていただいて、よろしく願いいたします。

(委員) 県の方と関連して、「こうした新たな生活環境の中において」という風に書かれていますが、「新たな生活環境で」という言葉も検討しておいてください。

- (議 長) 県と整合性を取ったということですね。では、よろしいでしょうか。
- (委 員) P2に人口が書いてあって、P1のところは「平成」「令和」とあるので、P2もアルファベットではなく同じように表記したらよいのではと思いました。
- (議 長) ありがとうございます。文字の統一をというご意見です。
- (委 員) P27の体協に係わる部分ですが、以前の資料で専門部の躰道がありませんでしたか。
- (事務局) 確認をします。社会体育担当の方になりますので。
- (委 員) もう1点、小淵沢のスケート場の今現在の状況は。
- (事務局) スケート場は2月28日で今シーズンの営業を終了しました。実績としましては、前年度より3千人程減少しました。コロナの影響だったり、スタートが例年は1月20日からになるところが、今シーズンにつきましては修繕工事をしていたことによりまして、12月10日からオープンした状況です。例年ですと2月11日が営業終了ですが、スタートが遅れたことによりまして営業を今シーズンは2月28日まで行ったところですが、スケート場の関係につきましては、今回の議会でも質問をいただいています。最終的にはどうなるかというところが、明確化されておりませんが、継続して子供達が滑れる状況を作っていきたいということで、現在市長が議会の方と話を進めているところです。しかしながら、やはり議会の方でも経費の掛かることですので、そういったところを十分に検討して話を進めていくということになっていきます。実際、現在のスケートリンクが今年度修理をして今シーズン行ったところですが、やはり機械の老朽化が非常に進んでおりまして、温暖化もあった中で、今シーズンにつきましては実際に営業ができた日数が少なく、丸一日営業できない状況というのが2月に入って8日間ありました。また12月から1月につきましても、2月も含めてですが、午前中10時半くらいから滑走不能という状況があったり、12時から滑走ができないといったような状況もありました。ですので、この機会の老朽化というものが非常に大きく影響しております。なので、これからは市の方で受けるのであれば、こういった状況も県と話をしながら、県の方で修理をしたのちに市が受けるのか、そういったことも現在、県と協議を進めている状況です。いずれにしましても、1万4千人を超える署名をいただいている中で、また財政的にどうなのかという声も届いております。そうしたことを踏まえまして、十分に県とも協議をし、市の議会とも協議をしながら、最終的に決めていくという形に現在はなっています。
- (議 長) ありがとうございます。
- (委 員) 20年くらい前に、泉中学校に6年くらい教員として勤務していたことがあります。その頃にもう、スケート場の運営がかなり厳しいということがはっきり出ていました。私見ですが、北杜市8町村の中で議員さん達の中にも温度差があるのではないかと。開いているだけでパイプリンクの中の光熱水費、気の遠くなるような数字が、平日4～5人しか利用していないリンクを維持していくために。これを北杜市がこの先何十年維持していけるのかなと。議員さん達の中に温度差はないですか。
- (事務局) 議員の皆さん、スケート場は残してあげたいという気持ちを持っていただいています。ただやはり、そういう気持ちがある中でも多くの市民がいる訳ですので、そういった方達にどれだけしっかりと説明をできるのかということも、私達職

員もそうですが、議員さん達もさらに責任を持っていらっしゃるので、北巨摩と言われる地域のスケート文化というものを議員さん達も承知してくださっています。そうした中で今頑張っている子供達にこの環境を残してあげたい、文化を守っていききたいという気持ちは議員の皆さんあります。しかしながら、立場的にいいですよとは簡単には答えは出せないというところも持っています。ですので、私達職員もしっかりとその点について説明をしながらご理解をいただきながら、市長の最終的な判断をとるところになっています。

(議長) ありがとうございます。他にご意見・ご質問ありますか。

(委員) P30 の管理体制の館長及び会計年度任用職員と書いてあるところですか。確か前は会計と夜間パートというのもありまして、今回、会計年度任用職員でまとめられたということですか。会計年度任用職員という言葉が、正規に北杜市の例規集に載っている言葉なんですか。

(事務局) そうです。

(委員) 組織の中でこういう名前を言っているか気になるだけなのですが。単純に、館長と職員で、会計年度任用職員というのは臨時職員のことですか。非常勤の。

(事務局) 昔の臨時と嘱託が合わさったものです。去年、地公法の制度改正がありまして、臨時という概念がなくなって、全部嘱託と臨時が合わさって会計年度任用職員と規程されています。館長がこの前言ったように再任用という職員OBで。

(委員) これはあくまで職員がなろうと再任用であろうと学識経験者であろうと、館長は館長ということですよ。

(事務局) そうです。

(委員) それ以外の人は職員というのはまずいということですか。

(事務局) 館長も職員といえは職員になるので。

(委員) パートも職員扱いですか。

(事務局) 会計年度任用職員です。

(委員) その辺は表へ出る文書だから、そこだけ検討してもらえれば。

(事務局) 会計年度任用職員は一応オフィシャルな言葉になっています。

(委員) 分かりました。

(議長) よろしいですか。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(委員) P20 の4の④ですが、「次世代の担う子どもたち」は「次世代を」ですかね。

(事務局) 「を」です。

(委員) あと、表記の文言の統一というか。例えば、色んなページでひらがなの「など」と「等しい」と使っているところがあるのでそこは統一した方がいいかと思いま

した。それから、「ともに」も「供」とひらがなの「とも」が使われているので、そこも統一した方がいいかなと。

(議長) ありがとうございます。文字の統一でした。他にありますか。では、第二号議案に移ります。北杜ふれあい塾について事務局お願いします。

(事務局) (2) 北杜ふれあい塾について説明する。

(議長) ご意見・ご質問お願いいたします。

(委員) 私見を述べさせていただきますと、今年のふれあい塾が9月からで皮切りが日本航空高校の若い子達の躍動感溢れる太鼓、これが当たりましたね。一昨日の閉講式、最後がクラリネットの優しい音色の中で、家に帰って資料を見たらこんな方達が北杜市に根を下ろして社団法人で活動していて、今年一年大変だっただろうなど。そこに光を当てて発表の場を作って、今年うまくいったなど。自分は今年のふれあい塾は最初の日本航空高校の太鼓隊を見て、次の栗田先生は県の大会で聴いたから端折ったのですが、その次は担当した落語、そしてクラリネットときて。落語や音は、やっぱり世界の言語としての音楽。そういうものはポーッと共感できる。クラリネットもなるほどと。それだけでいいのではないかという気がして。今年は並べ方がいいなと思いました。私見ですが、一番最初は西部地区から出ている県警音楽隊のコンサートでいいスタートを切って、そのあと東部地区の中田薫先生を2番手に持ってきて、3番手に北部地区で出ている北杜市の文化遺産と世界、あと南部地区でも佐野隆さんが出ていて、大森たつしさんも西部地区で出していて。大森たつしさん達の音楽を最後に持ってきて、音楽で一年間の振り返りをしながら穏やかに終わるのもいいかなと思って。だから、音楽があって、なるほどというような講座があって、そして落語があって、最後は音で終わる。そんなのがいいかなと思っています。この並べ替えはまだ可能なのですか？

(事務局) 先方との調整の部分がありますので、例えば第5回目の梨大の関係はまだ施設だけを取っているだけで、山梨大学と具体的にというのはまだやっていないので。委員さんが仰るように音楽が最後であれば、それを後ろの方に持っていくことは可能かもしれませんが。講師の方が決まっているところは、ある程度調整しながら、ホールの方もホール担当の自主事業の合間を縫いながら施設の調整もして、ひと月感覚くらいでやっていかないと。あまり近いと、ということもありますので。その辺の調整をさせていただいて。無理ではないかもしれませんが動かせるところは限られてしまうと。

(委員) 佐野課長の話を聞いたことがなく、課長の人となりも分からないのですが、閉講式のときに佐野課長を持ってくるというのが。佐野課長は年間計画の真ん中辺りでいいのではないかと。

(議長) ありがとうございます。

(委員) 年間の高校生以下無料にするというのは大賛成です。前からそう思っていました。一度長坂で埼玉から講師を呼んで、子供達をあてにして8月の最後の日曜日にやったのですが失敗でした。今のふれあい塾の年間受講生は70代が多いです。いかにして若い人を取り込んでいくかということ、これからもっと考えていった方がいいかなと。従って、今まで一回500円だったのが千円に上がったとしても、高校生以下無料にして子供達の範囲を広げてやっていくことについては大賛成です。それがふれあい塾が発展していく一つのきっかけになるかも。今年一回やってみて様子を見て。いつも思っていた、子供達をどうやって巻き込めばいい

かと。あるときは、チラシを学校に配ってもらったけどだめでした。夏休み最後の日曜日は、中学生は部活もあるし、夏休みの宿題のまとめをしないとならない日という風になっていて、結局失敗しました。なので、これは大賛成です。若い人が来るかなと。高校生以下無料とすると、高校生も足を運んでくれるかもしれないし。それを期待して賛成です。ふれあい塾も段々盛り上がり続けていくのではと思います。

(議 長) ありがとうございます。他にご意見・ご質問いかがですか。では、次へ進みます。第三号議案その他、事務局お願いします。

(事務局) (3) その他について説明する。

(議 長) ありがとうございます。説明のとおりですが、いかがでしょう。

(委 員) 調査研究ということですが、長年やっていますが社会教育委員というとふれあい塾が浮かんできます。それだけやればいいんだと。そういう考えになってしまう。他にやることというと、諮問が平成26年か27年頃、公民館の在り方とか社会教育施設のことについて答えたと。それ以外に諮問に答えるということがなくて。社会教育委員は一人でも教育委員会に行って、意見を述べるができる。そうすると委員会では、社会教育行政に反映すると。そういうようなことが社会教育委員の役割にあります。そういうことが今までなかった。社会教育法の第17条の1に、「社会教育に関する諸計画を立案する」とあります。これは事務局で作った生涯学習計画を検討している。2の「定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること」。これは何年前前にあって、そこからありません。3の「前2号の職務を行うために必要な調査研究を行うこと」。これがリーダーの提案されたことだと思います。今一番欠けている部分、社会教育委員会議で欠けているものというのと、このことじゃないかと思います。調査研究して、課題解決のために提言すると。そういったことが一番欠けているかなと。県内を見ても、社会教育委員会議として提言しているところもあります。今のところ北杜市はそれがなくて。だから、社会教育委員は何をするのか?となってしまう。何をしたらいいのか。ふれあい塾の運営をやっていればいいのかというイメージがある。その辺反省をして考えていった方がいいかなと思います。では何をしたらいいかと。地域の課題解決ですね。地域の課題を洗い出して解決するためにどうしていくのか。調査研究事項の例が出ていますが、この中で「学校と地域連携に関する研究」、「人材育成・活用に関する研究」とか。人材育成については社会教育委員の基になっている、人と人を繋いでいくとかネットワークみたいなもの、コーディネーターもやってくれるようなそういう人の人材育成ということですか。

(事務局) それも含めて。基本的には、市民の人が自主的に活動していくというのが一番のベースだと思います。ふれあい塾は今こちらが企画していますが、本当は市が企画しなくても市民が自主的に企画しているものを市として応援していけるという状況の方がいいのかなと思っています。

(委 員) 令和元年度に県の大会で北杜市が発表する場がありました。その時に一番の課題として、調査研究を挙げました。それが現状では欠けているから、リーダーの言うように自分達でやるということがこれから必要だと。学校と地域連携は、泉小でありますね、学校応援団。コミュニティ・スクール。「社会教育施設の役割とその運営に関する研究」、これは各施設に行って話を聞いたりとかそういうことではないかと思います。それから「ネットワーク化、人的・物理的に関する研究」。今まで北杜市の社会教育委員会議として4つ、どれを取っても欠けている。独任制

だからといって教育委員会に提言した人いますか。多分、今で誰もいないと思います。定例会に行って意見を述べるができるんですよ。一番欠けているのが調査研究というわけです。次に社会教育委員になってくれと言っても、何をするのか？となってしまう。社会教育会議としてはとても必要なことだと思います。まずは地域の課題を洗い出して、具体的にどういう策でやっていくかと。場合によっては教育委員会に提言して、諮問されなくてもこちらから。市全体の課題は少子高齢化と分かるが、市全体の課題というイメージですか。

(事務局) 市全体です。今日は堅苦しい感じではなく、ちょうど任期も切れますので2年間どうでしたかというところで雰囲気をつまみたいと。意見交換で。問題提起をしようということは考えていません。だから今日は議題ではなく、その他のところで入れています。2年間振り返って、それをこちらにも参考にしたいです。「私達の役割って何か？」と思っているのであれば、それを言っていたいただいても結構です。洗い出しはこちらでやっていきますので。

(委員) 他のところで、社会教育会議として調査をやっているところもありますね。感想で一言。

(事務局) 感想でいいです。

(委員) 今の文化活動にしても社会活動にしても、若い人に限らず参加者がどんどん減っていると。公民館の関係の方も一般の方も何が悪いのだろうと。どうすればもっと人が集まっていい活動ができるのか、みんな悩んでいると思います。そのことを考えると、社会活動を推進していくためには、どこにどんな風に手を入れればいいのか、何が課題なのかというようなことを考えたり、取材をしたりして、私達としてはこんな風に思うけれどもいかがだろうかということを、教育委員会なり公民館なりに提案させていただけたらいいのではないかと思います。

(議長) ありがとうございます。

(委員) 板山議長の言っていることは、北杜市社会教育としてこういう考え方でいくんだということじゃなくて、十人いれば十人十色な考え方を持っていてその中で。青山鉄兵さんは「社会教育委員はファシリテーターだ」と言っていました。ファシリテーターは調整役なのです。社会教育委員は一人ひとりがそれぞれみんな同じで、ベテラン・新人関係なく意見を言っているいいということを言っているのだと思います。北杜市教育委員会は教育長がいて教育委員会がいて、教育委員がいて、さて北杜市の教育委員会としてはどういう方針でいきますかって形で足並み揃えていかないと。社会教育委員にとってはそんなことはないのだけれど、県内を見渡してみると議長が2つか3つと言ったのですが、本当に少ないです。教育委員会の中で、社会教育の関係者と学校教育の関係者が同じテーブルについて、協力してやりましょうと。自分も泉のコミュニティ・スクールで頼まれて協力させてもらって、中学校畑にいた人間が小学生と親しくやれて良かったなど。今年コロナ禍でコミュニティ・スクールもどうしているかという、校長先生に聞くと、今年はみんなストップですと。あれだけ盛んになった泉のコミュニティ・スクールも、コロナ禍で開店休業でやむを得ないですよ。登下校の見守り活動をしている人達がいるけれども、高齢者はコロナで菌が移ったら重症化する人が多いということになれば難しい。教育長は学校教育と社会教育を所管しているその長ですから、社会教育の立場で言ったり、あるいは学校教育の委員さん達と話すこともいいと思うのですが、県内の中でそれをやっているところが数えるほどみたくないところがあります。私は板山議長と違った視点でお願いしたいと思うのが、首長が変わったので社会教育に対してどういう考え方を持って、どういう

進行をしようと。端的なことをいうと、関ブロの大会に出ても知事が出てきて挨拶するところと、副知事が代わりに挨拶したり、ああこの県はだめだな、一番トップが社会教育を軽視しているな、なめているなど。長野県は熱いです。地域性があるのですが。上村市長が慣れてきたら、社会教育に対してどういう考え方を持っているかと。子供の人口を増やしたいとキャッチフレーズで満身創痍になってやると。では、社会教育の方はどうかと興味があります。上村市長の熱いメッセージを聞きたいくらいです。私達が市長室を訪ねてどういう考えを持っているかみんなに言ってくださいよとか、私達の背中を押してくださいよと言える立場にあるのだけれど、そんなことしている人誰もいませんが。そういうことをすれば白い目で見られるようなところでは、まだまだ北杜市はと思うのですが。やっぱり首長の考え1つだと思います。お金の掛かることですし、市のトップがどういう風に考えているか。そういう意味では今年の事務局には感謝です。去年4つのセンターから本課に吸い上げると聞いたときは、社会教育は形骸化していくのかなと心配しましたが、立派にここにありというのを示してくれました。感謝です。

(議長) ありがとうございます。

(委員) 議会広報を見ますが、社会教育が話題になったことは2～3年に一回しかないです。社会教育は軽視というか票にならないから、話し合いに出さないということを知ったことがあります。予算が伴ってきますが、調査研究について予算はどうなっていますか。

(事務局) 定例会以外の会議分の報酬も予算化してありますので、視察研修等で公用車行ったり必要最低限の経費でできますので。当然、定例会の報酬以外の研修だったり、研究大会や関ブロの予算も取ったりしています。昔のように全員でということは難しいので、社教委の関ブロと公民館の関ブロと半分半分というような形で参加の経費は予算計上してあります。

(委員) 分かりました。

(議長) 他にいかがでしょうか。

(委員) 調査研究は素晴らしいことだと思いますが、社会教育は行政と別の方から意見を言うていくという方がよりいいかと思います。今回、調査研究をやっていくという話がある中で一つ気になるのが、関ブロとかそういうのがあるから、公民館や分館とか連携という話もいいと思うのですが、当座は関ブロのテーマみたいなものやっていく方が、関ブロとかに行つて喋る話にも繋がるし、一回目はそういうのを入れてった方がどうかと思いました。コロナ禍における地域づくりとか社会教育の在り方とか。

(議長) ありがとうございます。他にはありますか。

(議長) 今この項目がその他の中に入っていますが、私が思うに大きなところに持ち上げてもいい画期的な提案だと思います。北杜市の社会教育委員会の改革・開拓するための、とても重要な濃厚なものだと思います。これを検討していくことによって、この会議が進化・発展していく。我々としてはさせていかねばならない、と思いつけてきたのですが、何をどのようにしたらいいか分からなかったということが、私自身の今までの経緯・経過です。その痒いところにピンポイントでかじってくれているなというのが、この資料だと思います。具体的に何かということが早速出ましたが、この4番のところをいかにどのように進めていくかというこ

と。これはまたやり方によっては足踏みするでしょう。ぜひ半歩ずつでもいいから前進するべく、これは貴重な提案だと思います。大事にしていきたいと思いません。では、その次に行ってよろしいでしょうか。成人式についてお願いします。

(事務局) 成人式について説明をする。

(議長) ありがとうございます。何かありますか。よろしいでしょうか。では、このような形で進めていくということです。その他の中で、何かありますか。

(事務局) お手元に社教委連の会報があるかと思います。お目通しをいただければと思います。もう一つ事業のチラシですが、バッハのマタイ受難曲の演奏会ということで、3月14日今週の日曜日になります。場所は県民文化ホールの小ホールということです。こちらは山梨大学との連携事業で実施をします。当初は高根のやまびこホールの予定でしたが、出演者が多いということで舞台上の人数の制約であったり、ホールの定員が200名でやっていますので、観客や出演者の制限があるということで今年は県民文化ホールでやることになりました。本来であればやまびこホールでやりたかったですが、そういう事情があって臨時的に県民文化ホールの方で行います。興味のある方がいましたら、ご来場ください。

(議長) ありがとうございます。委員の皆さんから何かその他で協議することはありますか。

(議長) では、その他のその他として私の方から一つ提案させていただきます。今日で今年度最後の定例会、今期最後の会議でもあります。私達二年一期やりまして終わりになります。締めくくりの中で委員の皆さん、二年間会議に出席されて何かお感じになられたことが多々あるかと思えます。それからこの改革・開拓について事務局の方からご提案がありました。何かここでご意見をお聞きしたいと思います。

(委員) いきなり意見と言われても意見はありませんけれども、2年間やらせていただいた中で感じたことを申し述べたいと思います。ふれあい塾が中心の活動になってしまっただけですが、その中で知らない北杜市在住の方で色々な活動をされている方が多々いらっしゃるんだなと思えました。資料の人口を見るとあまり減っていないですが、元々いらっしゃった方の人口より新たに来た方の比率の方が増えているのかなと思います。私が住んでいる明野町も知らない間に新しい方達の住宅地が増えています。地区の活動に入ってくれる方はなかなかなくて。入ってきた方とお話すると、色々な前歴があってユニークな方がいる。これからコミュニケーションを新しく来た方とどううまく取っていくか、そういうことも重要なことと感じております。調査研究の中で人材活用とかそういった中で、新しく来た方を知る中で探っていく必要があるのかなと思います。

(議長) ありがとうございます。次よろしくお願いします。

(委員) 個人として、地域の活動は出られるものは出るように心がけていますが、その都度思うのが、参加者がどんどん減っているということ、みんな口々に言っています。そこを何とかすることに貢献できたらいいなと思っています。ありがとうございました。

(議長) ありがとうございます。では、次お願いします。

(委員) ふれあい塾のアンケートを生涯学習課の方がとても丁寧にまとめてくださって、

昨日も読んでみたのですが、とても熱心な声を書いてありました。なので、あのアンケートを生かしながらふれあい塾をもっと盛り上げたいなと思っています。ありがとうございました。

(議長) ありがとうございました。

(委員) 私も2年間やってきましたが、何が何だか分からなくて、ふれあい塾のことを言われるままにやってというようなことしかできなくて、申し訳なかったなと思います。私事でいうと、社会教育委員と民生委員と介護サポートリーダーと地区の保健推進員、4つの仕事がいっぺんに降ってきて、なんで今年一緒なんだと何が何だか分からないで、アップアップしながら二年間過ごしました。地区の方も、新しく来た方は入りたいんだけど入れない。地区の公民館カフェに来てくださいますと言っても、うーんと言ってなかなか来られないとかそのようなこともあるので、周りの方に声をかけたり色んなところに来てくれるようにしたいと思います。

(議長) ありがとうございました。

(委員) 私は右も左も分からぬままにお受けして、2年が経とうとしていますけれども、まだまだ社会教育ということが分からない状態で。私は子育て世代なので、社会教育というのが全世代に向けた教育だと思っています。私も色んな活動に、色々な年齢の人が関わっていくというのがいいのではないかと感じています。やはり父兄の中にも移住者が段々増えているのを感じます。その方達は地区には入っていないので、地区での役割は全く分からない感じなので、北杜市自体が多分特色のある地域なので、そういった方達も地域に入って来られるような何かができたら、もっと発展していくのではないかと感じています。同じ世代の人達も働いているとなかなかその地域の役を引き受けるのも躊躇しているところがあるので、私にできることはやはり調整役というのができるのかなと、お話を聞いていて思いました。2年間ありがとうございました。

(議長) ありがとうございました。

(委員) 私も一期目で様子も分からずこちらの会に参加させていただいたのですが、昨年1年間はコロナ禍の中で小中学校の消毒活動に参加したりとか、社会教育委員としての役割が何か分からないうちに、小中学校の子供達が安全に学校生活を送れるように、何かできることはないのかなということの発案がありまして、水道のカランを綺麗に消毒したり、子供達が給食を食べるところの安全性を確保するためにボランティアの人達が集まってそういう活動ができたことが大きな成果だったのかなと思いますし、社会教育委員の立場で青少年育成推進員もありまして、色々な地域でやれることってたくさんあるのかなと思います。今回一期で後任に譲ろうかなと思いましたが、「あなた何を言っているの、1年間2年間くらいでは何も分からないよ、あと一期頑張りなさい」というような言葉をいただきまして残留することにいたしました。結構色々なことを地域の関わりの中で見ることができたいい機会だったなと思います。また新年度に向けて、できることを一生懸命にやっていきたいなと思います。よろしくお願ひします。

(議長) ありがとうございました。では、よろしくお願ひします。

(委員) 2年間本当にありがとうございました。社会教育委員を仰せつかりまして、社会教育委員は何をしたらいいのかというのが正直な話でした。前任者からも具体的にこういうことやるんだよとあまり聞いていなくて、ただ引き受けただけの話でしたけども、私が地域社会で色々な人に社会教育委員って話をすると、知らない

人が多くて「社会教育委員って何をやっているの?」という質問がものすごく多かったです。それに対する明確な回答を僕はできませんでした。2年間やっていくうちに、社会教育委員イコールふれあい塾なのかなっていう気持ちを持っていました。でも色々と文献を見てみると、そうではないんだよということがありましたし、色んな面でもっと活動するところがあったのかなっていう気がします。私が武川に来て40年経ちます。27歳でこちらに来まして、だいたい40年くらい経ちますが、地域社会がものすごく変わりました。風景も変わりましたし、人も変わりました。少子高齢化、本当にそのまま、昔僕が来た頃は非常に子供さんがたくさんいたんですけども、今はほとんどいないという現状で。ご承知のようにこのような状況ですと、地域の集まりもほとんどなくて地域で色んな情報を得る手段がここ1年ほとんどなかったです。ただ、社会教育委員になりまして新聞紙上やマスコミ辺りで社会教育っていう言葉に非常に敏感になったことは確かです。そういう意味で、やはり一つ目の向けるところできたのかなということはありませんでしたけど、ありがとうございました。

(議長) ありがとうございます。では、よろしくをお願いします。

(委員) 2年間務めさせてもらいましたが、また一つ発見をしたというか、一つは社会教育法をもう一度ちゃんと読まないといけないなということを思いました。17条の内容についても把握してなくて、基本的なことをもう一度確認しなければいけないなということを思いました。もう一つは、我々が子供の頃の苗字が、今地域の人を見るとかなり変わっています。私が生まれてからこちらへ移り住んで活躍してくださる方も大勢いて、我々の地域あるいはそれ以外のところで活躍していて、そして北杜市に来て活躍してくださる方もいますが、案外そういう方を知らないという。ずっと昔から付き合い合っている人はこういうことをやっているとか分かりますが、新しく移り住んで活躍してくださる方は知らないなということを思いました。そういう方も色々な面でお願ひしながら、今まで住んでいた人と一緒に活躍してもらえともっと北杜市自体も発展するのかなと思っています。社会教育はカテゴリーとして広いところだと思うのですが、寿命も延びていますので、若い人から高齢者まで何か一緒になってできることがあればいいなと感じました。

(議長) ありがとうございます。お願いします。

(委員) 社会教育委員という立場になったときには、何をするのかよく分からなかったのですが、自分のための勉強になったように思いました。特に、事務局からいただく資料によって、市の動きとか市の考え方とか勉強にもなって、社会教育委員をやっていて良かったと思った一番の理由になるかもしれません。先日のクラリネットのコンサートに久しぶりに参加させていただいて、会場の皆さんの様子を見ていて、やはりふれあい塾ってすごく大切なんだなと思いました。皆さん人とふれあうことがすごく嬉しそうな顔をしながら、また臨場感の中で本物の音を聴いて楽しんでいる・癒されているっていうのを感じて、ふれあい塾は大事なんだな。ただ社会教育委員はふれあい塾をやっているだけじゃないのっていう気持ちもありますが、やはりそれって大事だなって思いました。ただ、コロナが来年の冬もあるんじゃないかと言われている中で、人数制限のあるものはなかなか実施しづらいと思うので、やはりオンラインがこれからの社会教育に必要ななってくると思います。ふれあい塾って年配の方が多いですよね。でも、社会教育っていうのはもっと子供とか若者を巻き込まないといけないので、そういう人達も教育を受けられることを考えたら、ふれあい塾だけでは不十分でもっとオンラインで好きな時間に視聴できる仕組みが必要かなと思いました。もう一つは公民館運営委員という立場にもなっているけれども、そこでの自分のやることがいまいち分

かっていなくて、そこは正直な感想ですが、また勉強していききたいなと思っています。ありがとうございました。

(議長) ありがとうございました。では、よろしく願いいたします。

(委員) 本日の会議で、次年度の社会教育委員の活動というものが充実されるということで、いいことだなと思ったところです。残念ながら私はここで終わらせていただくことになっておりまして、また別な方面で社会教育の関係について尽力して参りたいと思っています。2年間色々お世話になりました。ありがとうございました。

(議長) ありがとうございました。突然でしたけども、皆さんから感想をいただきましたけども、これは貴重なご意見ということで今後の運営に役立たせていただこうと思っています。ありがとうございました。では、これで議事の方を終わらせていただきます。

(事務局) ありがとうございました。皆さん慎重審議、長時間にわたりました本当に貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。コロナの時代になりまして様々な環境が変わってきました。それでもやはり大事な社会教育・生涯学習というのは非常に重要であるということも改めて感じたところでもあります。ぜひまた今後ともよろしく願いいたします。それでは閉会のあいさつを、公民館運営審議会赤岡副会長よろしく願いいたします。

(副会長) 今日は長い時間ありがとうございました。全員の方々のご意見・ご感想を聞いて、とても爽やかな感じで、来年度の見通しが少しずつ出てくるのかなと思っています。コロナの終息を願いつつ、また来年度、社会教育委員の方々のご協力と会の発展があるようにと思っております。今日はこれで終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

閉会（午後3時45分）